

20 豊建発第 197 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

愛知県北設楽郡

豊根村長 熊谷 卓



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号にて依頼のありました標記の件について、その意見・提案を別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

愛知県 豊根村

- ・ 無駄を省き効率的かつ経済的な事業実施をすること。
- ・ 整備の遅れている地方部の道路に対し重点的に予算配分すること。
- ・ 道路特定財源の一般財源化にあたっては、道路特定財源の趣旨に反することのないよう、安易に他事業に流用しないこと。
- ・ 道路整備の財源としての揮発油税等の暫定税率分について、地方の道路整備の必要性、既存道路の維持修繕、橋梁等構造物の老朽化対策の観点からも財源を確保する必要がある、恒久的措置を講ずるとともに適切に地方移譲すること。
- ・ 有料道路の通行料金にあっては、事業費の償還及び利用者負担、受益者負担の原則からも適切な料金負担を継続して求めること。
- ・ 道路整備における国と地方の役割分担を明確にし、高規格幹線道路、重要国道以外についてはその整備、維持管理について財源を含め大幅に地方移管すること。
- ・ 地方の道路の整備にあっては、各々の地方によって道路整備基準の要求が異なることから、国は構造等画一的な基準に固執するのではなく必要最低限の基準を示し、基準内での整備手法等は全て地方に委ねること。
- ・ 道路は安全で安心できる生活を提供する根幹となる基盤であり、その整備は国及び地方自治体の最も優先されるべき努めである。経済効果、利用者等の数値的のみに是非を論ずるのではなく、そこに生活する国民が存在する以上、その提供に対し責を果たすこと。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

愛知県 豊根村

○現状

- ・ 医師の不足、偏在等により、近隣地域の医療機関において診療科目の縮小が続いており、特に産婦人科、小児科の診療科目について縮小傾向が大きく、補助金、手当等金銭的に子を増やすべき施策を講じたとしても、検診、出産、成長までの診療を任すべき医療機関が近隣に無く、子をもうけることに躊躇せざるを得ない。

救急患者について、より遠くの医療機関に搬送せざるを得ず、特に重体患者にあっては、ドクターヘリの重複出動要請時や利用が制限される夜間、荒天時には救急車で搬送時間が生死、容体の軽重に直結する。

- ・ 保育園、小、中学校、診療所、消防駐在所、役場支所等各種行政施設、社会福祉施設等について、利用者数の面からは当然統合を図り行政の効率化と経費の節減を図るべきであるが、当該地区を結ぶ道路に安全で安心な通行の不備、所要時間の面から往来に躊躇せざるを得ない要因があり、現段階では統合できる状況ではない。
- ・ 高等学校について、私学は当然のこととして無く、自宅より通学できる高校は県立高校の統廃合により極少数となっており、通学することのできる地域も限られている。

○課題

- ・ 採算性、経済性の観点からも、一定の地域内に全ての診療科目を網羅した医療機関を設置することは不可能であるにしても、採算面を超越した何らかの策を講じないと、少子高齢化がより一層進み、無子高齢化となり、地域そのものが消滅する道をたどることとなる。

一刻を争う事態においては、道路事情による時間的制約が生死を左右することとなる。

- ・ 通常の荒天時においても安全、安心に通行でき数十分で当該地区を往来することのできる道路を整備し、各種施設を統合することのできる条件を整備する。

- ・ 通常の荒天時においても安全、安心に通行でき数十分で通学することのできる道路を整備し、バス等の公共交通機関を運行すること。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

愛知県 豊根村

出生から臨終までの一連の生活、人生を当地域で完結することのできる最小限の設備、行政サービスを提供すべきではあるものの、病院、大学等は利用人口規模の面からも近隣地域内に設置されることは当然望むべきも無く、通院、通学できうる策を考えるべきであり、その手段としては道路整備による当該施設との時間的距離の短縮につきるものである。

また、就業にあっては、長期の林業不振、極小規模農業の不採算性、公共投資抑制による建設事業の縮小等により、地場で就業できる事業体は極限られており、観光産業の整備育成、工場等企業体誘致を従来より模索しているものである。しかしながら、それらの実現について成果を上げることのできない主因として道路整備の遅れがあり、観光客の周遊経路の確保、物流経費の削減、所要時間の短縮を道路整備によってこれらの主因を取り除く必要がある。

少子高齢化がより一層進むことは容易に予測され、現状で足踏みすることは、無子高齢化となり集落、地域の消滅を待つこととなり、中山間農地、里山、林地の荒廃を招き、国土保全に重大な危機を迎えることとなる。

環境保全、地球温暖化防止の観点からも、都市部と山間部と各々の役割を共同して担い、どの地域にあっても最小、最低限の文化的生活、行政サービス、住民サービスを受けることのできる地域として自立して行くべきと考える。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

愛知県 豊根村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
国道 151 号太和金トンネルの改良整備	長野県飯田市と愛知県豊橋市を結ぶ国道であり、懸案となっている未整備箇所内、長野県阿南町新野峠工区及び愛知県東栄町三輪バイパスについては事業着手され、三輪バイパスは平成 21 年度末完成に向け着々と工事進捗されている。 豊根村、東栄町境に位置する太和金トンネルは旧規格のトンネル構造で、大型車のすれ違いができない幅員であり、151 号で唯一事業着手されていない未整備箇所である。	三遠南信自動車道の飯田山本 IC～天竜峡 IC 間が開通し、鳳来 IC～引佐北 IC 間の開通が間近に迫った今、国道 151 号の天竜峡 IC～鳳来 IC 間を整備することにより、第二東名と中央高速を結ぶ物流、観光、住民往来の活発化に大いに貢献する。 特に愛知県奥三河地域から静岡県遠州地域間の距離、所要時間は飛躍的に短縮され医療、生活圏域、往来の激変が予測される。	
旧富山、豊根両村間の道路整備	両村は平成 17 年 11 月に全国で最小人口規模の合併をしました。旧両村間は（主）阿南東栄線、（県）津具大嵐停車場線を利用し延長 26km で結んでおり、急カーブ、急勾配の連続する幅員狭小の道路である。冬季の凍結、積雪に加え、たびたびの落石、崩落により頻繁に通行止めとなる区間である。最近では平成 19 年 8、9 月に大規模な山腹崩壊が発生し、被災以来の 4 ヶ月間の全面通行止めと平成 21 年度完成に向けての時間通行止めを余儀なくされている。	通常の荒天時においても、旧両村間を安全に安心して短時間で往来することができ、保育園、小、中学校、診療所、消防駐在所、役場支所等の各施設等を統合することができ、行政の効率化と経費の節減を大きく図ることができる。 新豊根村住民として名実ともに一体化が図られ、平成の大合併の恩恵としてその果実を享受することができる。	